

THE RECORD

2005.12 No.553

- **音楽の大切さを訴える**
理解と共感を得るための著作権啓発キャンペーン
- **2005年第3四半期有料音楽配信統計**
- **Special Report :**
日中韓文化コンテンツ産業フォーラム2005に参加して



社団法人 日本レコード協会

RIA
Recording Industry Association of Japan

音楽の大切さを訴える

理解と共感を得るための著作権啓発キャンペーン

当協会では、海賊行為や不正コピー、不正アップロードなど違法な行為から音楽を守るための啓発活動を継続して実施しています。今年度は、対象となるユーザー層やテーマごとに、3つのキャンペーン・イベントに取り組んでいます。こうした活動を通じて、当協会では、幅広い層の方々に、音楽をどう守り、育てていくべきかを考えていただき、音楽文化の健全な発展につなげていきたいと考えています。今回の特集では、今年度の活動内容についてご紹介します。

Contents

Special Feature

音楽の大切さを訴える

理解と共感を得るための著作権啓発キャンペーン 1

2005年第3四半期有料音楽配信売上実績 5

Special Report

日中韓文化コンテンツ産業フォーラム2005に参加して 6

FRONT LINE

ISRCメタデータが登録制に 7

第2回 高校放送部著作権意識調査アンケート報告 8

Topics & Information 9

RIAJ Essay : いつかはランバルに... 11

Monthly Production Report 12

今月の数字 :

月別オーディオ・ビデオ新譜タイトル数の推移... 13

Gold Album+...認定 14

表紙の楽器

カンテレ

フィンランドに二千年前から伝わる民族楽器。カンテレとはフィンランド語で「琴」の意。初期のカンテレは5本弦で、一本の木をくりぬいて馬の尾の毛を張ったものだった。19世紀にまとめられた民族叙事詩「カワレラ」の中にその原型が出てくるが、もともとはそういった詩や物語を語る際の伴奏として用いられたと思われる。伝統楽器ながら現在でも多弦化、大型化など様々な改良が加えられ、音楽のジャンルを超えて注目されている楽器である。音色は透明で倍音の響きがとても美しい。



夏川りみさんを起用した今年度第1弾のポスター

音楽ファンにアーティストの想いを伝える 「Respect Our Music」キャンペーン



2003年度のアーティスト連名によるポスター

2002年度からスタートしたこのキャンペーンは、会員各社、音楽関係団体、レコード店をはじめとする業界関係者、ISPなど多くの方々のご協力のもと継続展開中で、今年で4年目となります。音楽ユーザーから一般社会人まで、幅広い年齢層に対し、不正

コピーや不正アップロードが音楽文化の根底を揺るがす問題であることを知っていただくための活動を積み重ねてきました。

このキャンペーンの一番の特徴は、アーティストからのメッセージを直接伝えるキャンペーンである事です。最初の2年間は「Love Music? Save Music!」をキーワードに、趣旨にご賛同いただいたアーティストの連名によるポスターを制作しました。初年度は121組、2年目は184組ものアーティストからご協力をいただき、業界内外から大きな反響が寄せられました。また、昨年度は、ブロードバンドや携帯音楽プレーヤーの普及を背景に、違法ファイル交換対策に焦点をあて、主に若年層のPCユーザー層への訴求を大きなテーマとしました。若い世代に支持されている奥田民生さん、華原朋美さん、コブクロさん、m-floさんにご協力いただき、それぞれからユーザーに対して明確なメッセージを送るかたちで、長期間にわたるシリーズでの展開に取り組みました。街頭や駅、電車など多くの人々が利用する場所へのポスター掲出、新聞・雑誌広告、インターネットバナー広告、各種パブリシティ、店頭イベントなどを通じて認知度の向上を図りました。これらの活動は着実に成果を挙げ、当協会のインターネット調査によるとインターネットユーザーの約95%が「市販CDの音楽を、ファイル交換ソフトを使って無断でアップロードすることは違法である」という認

識を持っていることが、明らかになっています。

こうした成果を踏まえて、今年度は、認知から理解へ、音楽を愛する気持ち、音楽を大切にすることを、アーティストの方々のメッセージで伝え、さらにユーザーの心に響くキャンペーンにしていきたいと考えています。協力してくださるのは、夏川りみさん、一青窈さん、大黒摩季さんの女性アーティスト3名です。今回のキャンペーンでは、ITが浸透し、さまざまな方々がデジタル音楽コンテンツを利用する環境が整ってきていることも考慮し、より幅広い層の人たちをカバーできるような告知展開を計画しています。また、今回から「Respect Our Music」を明確にロゴマーク化し、数多くの人に親しみやすく、さらに理解を得られるようにしました。

全国レコード店でのポスター掲出、当協会ほか会員各社、音楽関係団体、インターネットプロバイダーなどのホームページ上での特集ページ、バナー広告、オリジナルギフトカードによるパブリシティ、首都圏の地下鉄窓上広告展開などを実施します。インターネットでの展開を強化するため、今回は動画コメントも用意しています。11月の夏川りみさんに始まり、来年の3月まで、一青窈さん、大黒摩季さんへと順次受け渡ししながら、各氏の音楽を愛する素直なメッセージをユーザーに届けていく予定です。



今年6月10日から16日にかけて、首都圏JR、東京メトロ主要各駅に、2004年度「Respect Our Music」キャンペーンの4アーティストのポスターを4連で掲示。

トーク&コンサート in 沖縄 ～夏川りみさんと「涙そうそう」の出会いの物語を軸に

トーク&コンサートは、著作権啓発活動の一環として、作詞作曲家やアーティスト、制作現場から、著作権の大切さを訴えるためのイベントです。音楽関係9団体で構成する不法録音物対策委員会が主催するイベントで、今までに14回開催してきました。毎年、作家や歌手にご出演いただき、教室関係者を中心に一般の方々の参加を得て、不正をなくそうというメッセージを伝え、演奏や歌を通じて音楽の大切さを共感するイベントとなっています。

第15回目を迎えるトーク&コンサートは、2006年1月30日(月)に沖縄県那覇市での開催を予定しています。今回は、独自の豊かな音楽文化を持つ沖縄で行うことから、音楽教室関係者にとどまらず、より幅広い層の方々へアピールできるイベントにしていく考えです。「Respect Our Music」キャンペーンにもご協力いただいている夏川りみさんを筆頭に、沖縄出身の著名なアーティストにご出演いただきます。トークショーや、ミニライブ、ビデオ上映を交えながら、歌手夏川りみさんと「涙そうそう」の出会いから生まれた1枚のCDが、音楽を愛する沖縄の人たちに支えられて沖縄から全国へ広がるプロセスを振り返り、音楽の素晴らしさを伝えていくプログラムを用意しています。また、本イベントに先立って、地域の音楽業界関係者を対象とした著作権啓発セミナーの実施も予定しており、広く著作権意識の普及拡大に努めます。

日時：2006年1月30日(月)開場18:30 開演19:00
 場所：那覇市民会館
 主催：不法録音物対策委員会
 共催：那覇市
 後援：NHK沖縄放送局/FM沖縄/沖縄県/沖縄県教育委員会/沖縄県警/沖縄県芸能関連協議会/沖縄県文化振興会/沖縄タイムス/沖縄テレビ/那覇市教育委員会/那覇市文化協会/不正商品対策協議会/ラジオ沖縄/琉球朝日放送/琉球新報/琉球放送
 出演：夏川りみ/備瀬善勝/照屋林賢/内里美香/ティンクティンク/吉川精一(司会)
 応募方法：入場ご希望の方は必要事項をご記入の上、官製はがきかFAXでお申し込みください。
 必要記入事項：
 住所、氏名、年齢、電話番号、
 希望人数(はがき1枚につき2人まで)
 申込先：(社)日本音楽著作権協会 録音二課：
 〒151-8540 東京都渋谷区上原3-6-12
 FAX 03-3481-2744
 (社)日本音楽著作権協会 那覇支部：
 〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地1-3-1
 久茂地セントラルビル FAX 098-866-5074
 申込締切：2006年1月18日(水)消印有効
 ※応募者多数の場合は抽選となります。

携帯電話を利用した不正アップロード防止キャンペーンに参画

先月号でもお知らせしましたが、当協会と音楽関連団体および(社)日本インターネットプロバイダー協会の7団体は、(社)私的録音補償金管理協会(sarah)の助成を受けて、毎年「不正アップロード防止キャンペーン」を展開しています。同キャンペーンでは、不正アップロードが厳しい処罰の対象になることを明確に伝えています。知らずに犯罪に巻き込まれる人が現れないように警鐘を鳴らすと同時に、違法と知りながら不正アップロードを行う人に強く訴えています。

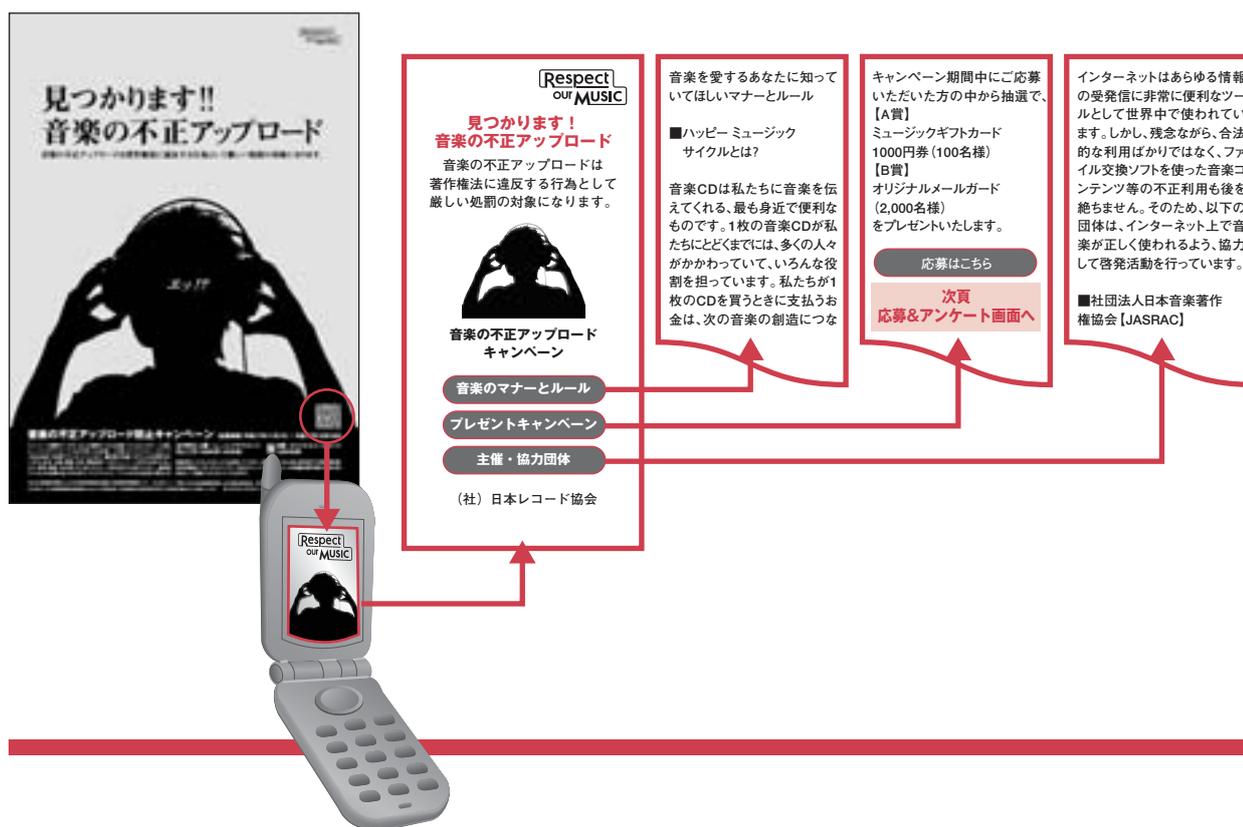


首都圏の都営地下鉄全線で掲出されているドアステッカー

今回は、「見つかります!!音楽の不正アップロード」をキャッチコピーとして、さまざまなメディアを通じて浸透を図っています。11月から12月中旬までの期間内に、幅広い読者を想定した全国紙への全5段広告の掲載、若者が読者層であるコミック雑誌、情報誌などへのカラー広告の展開を行いました。また、首都圏を走る都営地下鉄全線で、1カ月間、人目に触れやすいドアにステッカー貼付するPR展開を実施しました。インターネットでもポータルサイトにバナー広告を掲げるほか、今回は携帯電話の機能を使った新しいメディア・リンクの手法を採用しました。雑誌広告やバナー広告に音楽ギフトカー

ドのプレゼントの案内を掲載し、携帯電話のカメラで読み取るQRコードからモバイルサイトへリンクして応募できるシステムを採用しました。またモバイルサイトには、ハッピーミュージックサイクルの解説や、違法行為の定義などを簡潔に紹介すると共に、音楽配信サービスに関するアンケートも実施しました。「Respect Our Music」キャンペーンと2つの異なるキャンペーンの同時展開を通じて、不正コピー、不正アップロード問題と、音楽創造のサイクルの認知と理解を深め、相乗的な認知度の向上を図っています。

モバイルサイト基本構築図



音楽の不正利用の撲滅は終わりのない課題とも呼べるものですが、当協会では、継続的かつ地道にこの啓発活動を続けることでこの課題に取り組み、真の成熟した音楽文化が花開く環境の創出に貢献していきたいと考えています。

2005年第3四半期有料音楽配信売上実績

当協会加盟全社の集計による2005年度第3四半期(2005年7月1日～9月30日)の有料音楽配信売上実績がまとめられました。

今期は、インターネット・ダウンロード、モバイルとも大幅に伸長し、インターネット・ダウンロードが数量で235万回、金額で4億3,671万円、モバイルが数量で7,207万回、金額で90億8,169万円となりました。なお、本統計は、今後も四半期毎の公表を予定しています。

(数量:千回/金額:千円)

	2005年1月～2005年3月					
	数量	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
インターネット・ダウンロード	1,108	2.1%	—	310,330	4.7%	—
モバイル	51,035	97.9%	—	6,316,453	95.1%	—
その他	8	0.0%	—	17,261	0.3%	—
合計	52,151	100.0%	—	6,644,044	100.0%	—

	2005年4月～2005年6月					
	数量	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
インターネット・ダウンロード	1,044	1.8%	94%	233,124	3.1%	75%
モバイル	57,870	98.2%	113%	7,372,611	96.7%	117%
その他	10	0.0%	123%	16,932	0.2%	98%
合計	58,924	100.0%	113%	7,622,667	100.0%	115%

	2005年7月～2005年9月					
	数量	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
インターネット・ダウンロード	2,349	3.2%	225%	436,708	4.6%	187%
モバイル	72,069	96.8%	125%	9,081,691	95.2%	123%
その他	31	0.0%	310%	24,250	0.3%	143%
合計	74,448	100.0%	126%	9,542,649	100.0%	125%

	2005年1月～2005年9月					
	数量	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
インターネット・ダウンロード	4,501	2.4%	—	980,162	4.1%	—
モバイル	180,974	97.5%	—	22,770,755	95.6%	—
その他	49	0.0%	—	58,443	0.2%	—
合計	185,523	100.0%	—	23,809,360	100.0%	—

- 備考 1. 当統計は、会員会社「41社」が、事業主として、または卸販売して、もしくはライセンスをして配信を行っている音源等についての実績をとりまとめたもの。
 2. それぞれの項目内容は以下のとおり
 ・インターネット・ダウンロード: シングル、アルバム、その他の合計。
 ・モバイル: オリジナル音源を利用したシングル曲(全曲、一部)、着メロ、その他の合計。
 3. 数量: シングルは曲単位、アルバム他はそれぞれの構成単位での報告(例: アルバム1枚分のダウンロード回数は1回とし、曲数換算は行わない)
 金額: 会員会社収入

10月31日～11月4日の5日間、中国四川省成都において、日本・中国・韓国の3カ国政府による「日中韓文化コンテンツ産業フォーラム2005」が開催されました。(主催:日本・経済産業省、中国・文化部、韓国・文化観光部)

本フォーラムについて当協会の業務部担当部長、阿部秀男がレポートします。

本フォーラムは、3カ国の政府および民間における文化コンテンツ産業の専門家一堂に会し、各国の現状および将来について情報・意見交換を行うもので、戦略的な協力関係の構築と共同発展の促進を目的として開催されました。第1回の中国・上海での開催以来、第2回韓国・済州島、第3回日本・東京と3カ国を一巡、本年は新たに中国をホスト国として、文化の都として名高い成都にて開催されました。

日本からは、経済産業省大臣官房審議官の江崙正邦氏、同省商務情報政策局文化情報関連産業課課長の小糸正樹氏、同課課長補佐の青崎智行氏、学術分野からは女子美術大学芸術学部メディアアート学科教授の為ヶ谷秀一氏、実業界からは(財)デジタルコンテンツ協会専務理事の角田周一氏、アニメ、ゲーム、音楽産業からはそれぞれの代表者が参加しました。また、音楽産業からは、(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント国際グループインターナショナル・マーケティング担当の田中章次長と、ビクターエンタテインメント(株)商品管理部長兼海外営業担当の小森治信マネージャー、(有)エル・ディー・アンド・ケイの菅原隆文本部長がスピーカーとして参加し、オブザーバーとして、日本音楽情報センター(北京)の朱根全所長と当協会から阿部秀男が加わりました。

フォーラム1日目の全体会議では、江崙審議官の挨拶の後、政府代表として小糸課長が「日本のコンテンツ産業の現状と政府による主な施策」に関して講演を行いました。続いて青崎課長補佐が「コンテンツビジネス国際展開の現状と動向」について、(財)デジタルコンテンツ協会の角田専務理事が、特にアジア展開に的を絞って「コンテンツ産業の振興」について、最後に女子美術大学の為ヶ谷教授が「コンテンツ産業における人材育成」について講演を行いました。

2日目は、「文化資源の開発とアニメ産業の発展」、「アジアゲーム産業の発展動向」、「音楽市場の発展及び直面している問題」と3つのテーマに分かれた分科会が行われ、音楽の分科会では、日中韓3カ国のレコード関係者が集まり、各国の現状と抱えている問題点等についてプレゼンテーションを行いました。



日本からの代表団

日本からは(株)ソニー・ミュージックエンタテインメントの田中次長が「国内・海外戦略の歴史と現在」と題して、世界におけるソニーグループの現状と具体的な成功例を、続いてビクターエンタテインメント(株)の小森マネージャーが「ビクターエンタテインメントのアジア展開の現状と課題」というテーマで、過去から現在に至るアジア展開を紹介しました。最後に(有)エル・ディー・アンド・ケイの菅原本部長が「音楽アーティストの海外展開モデル」と題して、現在進行しているビジネスの戦略と課題についてのプレゼンテーションを行いました。

テーマ別分科会の終了後、四川省をはじめ各地の地元企業の方々の紹介があり、その後ビジネス商談会が催されました。

今回のフォーラムを通じて、日中韓3カ国の政府間ならびに業界関係者間の交流が促進されると同時に協力体制が強化され、アジアという一つの大きな市場のなかで互いに発展を目指すことを確認し合えたことは大変有意義なことでした。



フォーラムの様子



2006年4月より、レコーディングの国際標準IDであるISRC(国際標準レコーディングコード)のメタデータ*1が登録制になります。これまで登録者*2が各自で管理してきたISRCメタデータは、ISRC事務局に登録することで、はじめてその「業界ID」としての機能を果たすようになります。

曲名が特定されても「音」が特定されない限り、その実演家や製作者を特定することはできません。「音」のIDであるISRCによってはじめて、すべての権利者(作家、実演家、製作者等)の特定が可能になります。

現在、放送二次使用料分配は“出荷実績ベース”で行われていますが、より放送実態を反映させた“放送実績ベース”への移行を目指して課題の検討が行われています。そこでキーとなるのがISRCです。

ISRCが業界IDとしての機能を十分に果たすためには、すべての「音」にISRCが付いていることが重要であり、ISRC事務

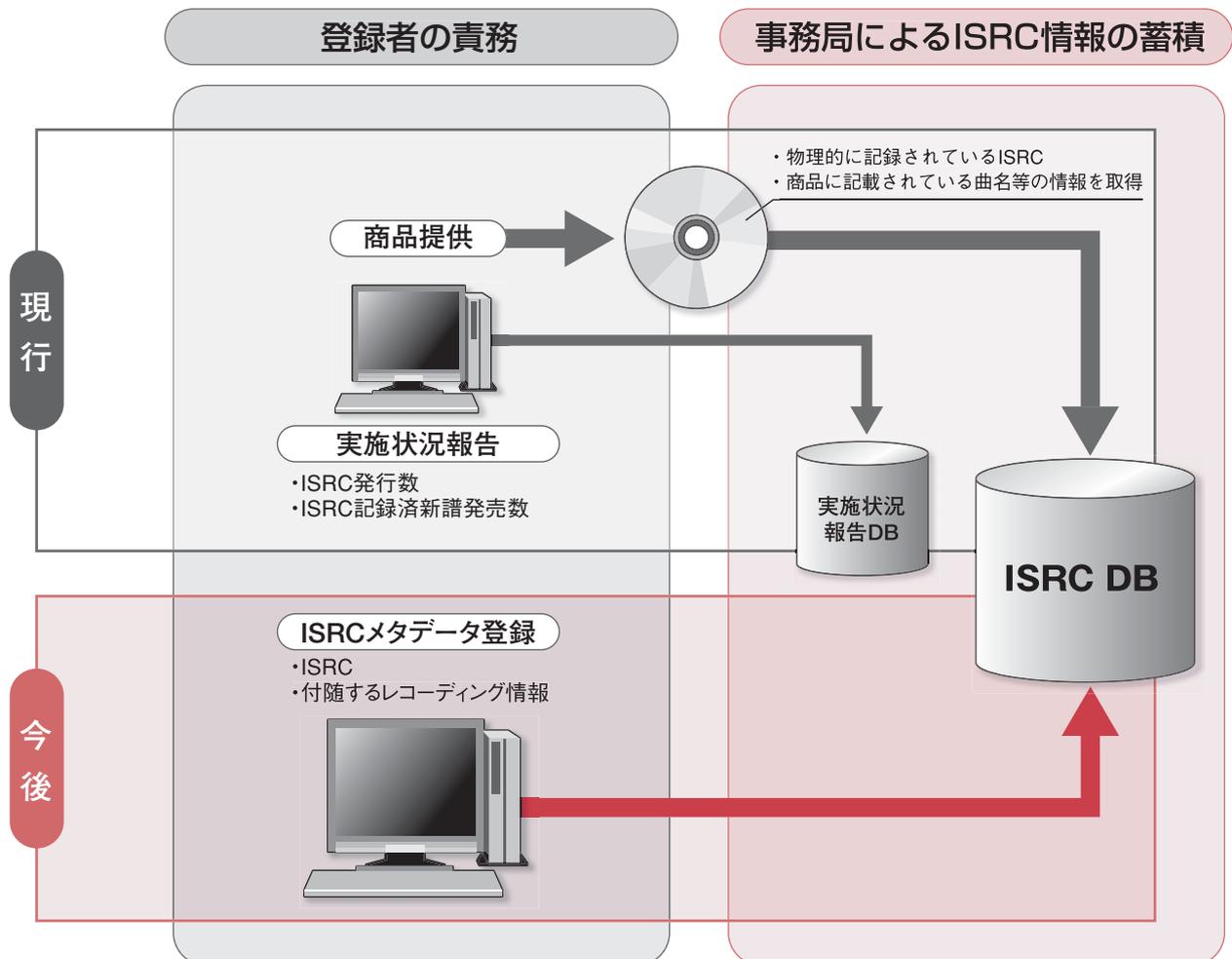
局がすべてのISRCを正しく管理できている必要があります。現在ISRC事務局は、商品に記録されたISRCの管理のみを行っており、近年激増している配信限定の「音」に付けられたISRCは把握していません。ISRC登録制は、市場拡大が期待される配信による楽曲提供にも対応できるものとなります。

登録制への移行に際し、情報管理および報告のための支援ツールを無償配布いたします。業界の情報管理環境改善とより公正な分配のため、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

詳細およびISRCの最新情報については、ISRCサイト(<http://isrcdb.jmd.ne.jp/>)をご覧ください。

*1 ここでは、ISRCとそれに付随するレコーディング情報を指す。

*2 申請によりISRC登録コードを取得したレコーディング製作者。自身でISRCを発行することができる。



第2回 高校放送部著作権意識調査アンケート報告

当協会では、著作権啓発のためのツール「音楽を愛するあなたに知ってほしいマナーとルール。(パンフレット)」と「CDができるまで(ビデオ)」を作成しました。今後の啓発活動に活かすために、これらツールを音楽ユーザーがどのように受け止めているのかを調査するアンケートを実施しました。

今月号では、パンフレットに関するアンケート結果を報告いたします。なお、このアンケートは全国の高等学校の放送部の生徒にパンフレットとアンケート票を送付する形式で実施しました。

昨年に続き、アンケートの実施は今回で2度目。集計母数は145。パンフレットの主な改訂点は以下の通り。

- ハッピーミュージックサイクル：楽曲が創造されCDとなり消費者に届けられるまでの過程や、そこに携わる人々の役割を詳しく解説
- 著作権法上違法となる行為と適法な行為をQ&A方式で解説

I・『ハッピーミュージックサイクル (音楽創造のサイクル)』の認知と理解

- パンフレット改訂によりサイクルの説明が詳細になったため慎重な回答が増え、「CDがつくられるまでに多くの人が関わっている」ことを「よく知っていた+大体知っていた」が78.6%と、2004年調査の86.6%に比べて低下しました。
- しかし、「このパンフレットを読んで【ハッピーミュージックサイクル(音楽創造のサイクル)】が「よく分かった+大体分かった」のは85.5%となり、2004年調査の65.9%を大きく上回りました。

改訂により踏み込んだ内容となったため、『ハッピーミュージックサイクル』認知は下がったように見えたが、全体の認知・理解は確実に上がったといえる。

II・『音楽と著作権法』について

- 「音楽が著作権で守られていること」の認知およびパンフレットを読んで「音楽が著作権で守られていること」が「よく分かった+大体知っていた」率は、おおむね昨年と同程度でした。

感想・意見では、著作権に対する理解の深まりを示すものが目立った。

III・音楽を楽しむためのルール/ケーススタディー/コピー編

- コピーに関するケーススタディーの認知では、「自分が買った音楽CDからCD-Rにコピーして、フリーマーケットやネットオークションで売ることができない」が、87.6%と最も高



パンフレット表紙

く、海賊行為の違法性は多く理解されていることがわかりました。

- しかし、「クラスが同じ人に自分が持っている音楽CDをCD-Rにコピーしてあげる(ことができない)」の認知は、47.6%と低下。「金儲け目的でない複製行為」に関する違法性の認識はまだ低いことがわかりました。
- なおパンフレット当該部分の感想では「Q&Aが分かりやすくて良かった」との意見が多数となり、今回のスタイルが理解の促進に大いに役立ったことがうかがえました。

III・音楽を楽しむためのルール/ケーススタディー/ネット編

- 最も理解の割合が高い項目は「個人のホームページで自分が選んだアーティストの曲のタイトルや自分で考えたメッセージを掲載することはできる(ことを知っている)」の71.7%で、他の項目(個人や学校などのホームページでの楽曲の利用やファイル交換ソフトを利用した楽曲アップロードなど)については、違法であることを正しく認識している生徒は50~60%程度でした。

全ての生徒がインターネットを活発に利用しているとは限らないため、一概にこの数値を低いとは判断できない。今後の経過を注視する必要がある。

IV・「音楽を愛するあなたに知ってほしいマナーとルール。」パンフレットと著作権について

- パンフレットの評価は「大変分かりやすい」が33.1%となり、2004年調査の20.8%を大きく上回りました。

●今後のキャンペーンについて

今回調査から、今後の啓発活動については、金銭のやり取りが無くても違法なコピーとなる場合があること、そしてそれがなぜ違法になるのか、といったことの認識を高めることが課題といえます。

Topics & Information

蘭レコード権利管理団体SENAと二次使用料等の相互管理協定を締結

当協会は、オランダのレコードに関する権利管理団体SENAと放送二次使用料等の徴収・分配に関する相互管理協定を締結しました。SENAは、オランダ隣接権法が施行された1993年以降、法務大臣の指定団体として、実演家・レコード製作者に係る放送二次使用料・レコード演奏使用料の徴収・分配業務を行っており、この他にも、オランダレコード協会NVPIから、私的録音録画補償金の管理業務を受託しています。

11月1日付で発効した本協定により、当協会とSENAとの間で放送二次使用料、私的録音録画補償金等の分配が実施されることとなります。なお、当協会はイギリスおよびアメリカの団体とも同様の相互管理協定を締結しています。

IFPI中央理事会開催

11月9日、IFPI(国際レコード産業連盟)の中央理事会がニューヨークで開催され、当協会の佐藤修会長が出席しました。

中央理事会は、世界のレコード産業の活動方針を決める重要な会議であり、今回はインターネット上の音楽の違法利用対策や海賊版CD、CD-R等への対策の経過と今後の展開、市場統計に関する国際標準化、レコード製作者の権利に関する法制化など、様々な課題への取り組みについて審議されました。

なお、日本からは、今年の音楽ソフト生産実績および音楽配信売上の状況、日本における私的録音録画補償金制度の見直しに伴うiPod等の機器の追加指定に関する検討状況等について、佐藤会長から報告を行いました。

平成17年度出版／音楽・映像ソフト業界 電子タグ実証実験説明会開催

11月7日、東京港区の明治記念館で、出版／音楽・映像ソフト業界電子タグ実証実験事務局主催の「出版／音楽・映像ソフト業界電子タグ実証実験説明会」が開催されました。この実証実験は、昨年度実施された経済産業省の音楽・映像ソフト業界の電子タグ実証実験に続くもので、今年度は出版業

界と共同で実施されました。今年度のキックオフとなる今回の説明会は、各業界の関係者ら80名が参加し、音楽業界からは当協会の田辺攻専務理事、田中純一常務理事が代表して挨拶を行い、また、情報・技術部赤塚祐一郎課長が昨年度の実験の報告と今年度の実験の方向性について説明を行いました。



田辺専務理事による挨拶

hesseパネルディスカッションに佐藤会長が参加

11月24日、25日の2日間、東京都港区のTEPIAで「第6回ホームエンターテインメント産業展」(hesse)が開催されました。24日に開催されたパネルディスカッションには、当協会佐藤修会長がポニーキャニオン代表取締役会長として出席しました。

「音楽流通の行方～音楽配信とショップの対応～」と題された本ディスカッションには、佐藤会長、(株)ドリーミュージック取締役の上田正勝氏、(有)オデオン堂専務取締役で日本レコード商業組合副理事長の門倉正一氏、(株)イケヤ代表取締役社長の池谷貞悟氏、ライターでIT・音楽ジャーナリストの津田大介氏がパネリストとして参加し、音楽評論家の富澤一世氏がモデレーターを務めました。

第1部では「音楽配信の現状と今後」をテーマに、日本での



パネルディスカッションの様子

音楽配信の現状と経緯が説明され、ユーザーの音楽配信利用実態調査の結果報告が行われました。続いて第2部では、「音楽流通の行方ー配信とパッケージの未来」をテーマに、主に音楽配信とパッケージの関係について議論が行われました。

IFPI、市場調査委員会を開催

11月3、4日の2日間にわたり、ドイツ・ベルリンにおいて、IFPIによる市場調査委員会が開催されました。この会議は、IFPIが集計・公表している統計に関する課題について意見交換を行うもので、IFPI本部、各ナショナル・グループ、メジャー各社より統計担当者が参加し、年1回開催されています。当協会からは、業務部の水村雅博部長と渡部智子職員が参加しました。

今回は、今年初めて公表を行った配信統計が大きく取り上げられ、今後の公表方法、集計基準の統一、チャート、認定制度への取り組みなどについて、幅広く意見交換が行われました。また、従来のパッケージ統計の報告要領確認、アメリカ、ドイツの消費者調査に関するプレゼンテーションなども行われました。

IFPI技術動向報告会開催

11月22日、東京都港区の虎ノ門パストラルにおいて、情報・技術委員会主催によるIFPI技術動向報告会が開催されました。

今回の会議にはロンドンのIFPI本部からポール・ジェソップ技術部長が参加し、ISRC等の最新の技術関係の案件について活発な意見交換が行われました。



報告会の様子

CRIC東京特別研修に参加

WIPO（世界知的所有権機関）と文化庁が共同で実施し、社団法人著作権情報センター（CRIC）が企画・運営している「アジア地域著作権・著作隣接権に関する特別研修」が、11月14日～25日の約2週間にわたって開催されました。

今回の特別研修には、アジア・太平洋地域の国々で著作権と著作隣接権のエンフォースメントに携わっている警察関係者を中心に、政府関係者9名が参加しました。

この研修では、文化庁、警察庁、裁判所、税関をはじめ、著作権関係の専門家、関係団体等が研修を行いました。当協会も11月22日、日本のレコード産業の概要、レコード製作者の権利と日本におけるエンフォースメントの状況等について広報部今村二郎部長と業務部米内友伸主任がプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションに続き、CDレンタルシステム全般の運用状況、カラオケに関する集中管理、海賊版業者に対する民事訴訟提起の有無、輸入海賊版に対する税関との協力関係等に関する質疑応答が行われ、日本のレコード産業の課題・取り組み等に対して、高い関心が示されました。

(財)音楽産業・文化振興財団から研修生が来会

(財)音楽産業・文化振興財団（PROMIC）は、音楽産業の振興を目的として、アジア各国の音楽業界関係者を招聘し、日本の音楽産業についての「海外研修プログラム」を毎年開催しています。今年は11月6日～13日の8日間の日程で、中国、香港、韓国、マレーシアの音楽業界から計6名の研修生が来日しました。

当協会からは、11月7日、広報部の高山美登里主任が日本のレコード産業の概論とレコード製作者の権利について講義を行いました。

参加者からは、特に日本の配信市場、レンタルレコードの仕組み、インターネット上での違法対策、国外頒布目的商業用レコードに係る還流防止措置についての実務に関する質問が多く出され、参加者全員の熱意がうかがえる研修でした。

CDs21ソリューションズ CD20周年の集大成となる書籍を発行

CDメディアの普及団体である「CDs21ソリューションズ」は、CD発売20周年を記念して、20年間のCDメディアの機能と役割についてまとめた「コンパクトディスク その20年の歩み -CDがもたらした三つの文化革命-」を発行しました。この本の編纂・執筆には当協会も全面的に協力しています。



■書名：コンパクトディスク その20年の歩み
—CDがもたらした三つの文化革命—

■総括監修：中島平八郎

■企画／編集／発行：CDs21ソリューションズ

■お問い合わせ先：CDs21ソリューションズ事務局

<http://www.cds21solutions.org>

● 2005年11月会議メモ

- 11・8 法制委員会
- 11・9 マーケティング委員会
- 11・10 レコード倫理審査会
- 11・11 情報・技術委員会
- 11・15 アジア音楽市場拡大委員会
- 11・16 広報委員会
- 11・17 日本ゴールドディスク大賞委員会
- 11・18 執行委員会
- 11・25 理事会
- 11・30 二次使用料委員会

RIA Essay

■ いつかはランパルに・・・

株式会社バップ 取締役営業本部長 山本陽一

大学入学時、衝動的にオーケストラ部に入部。管楽器の中でも最も吹奏困難と言われるフレンチホルンを担当し、何とかオーケストラに溶け込めるようになった時には卒業。

社会人になってからは全く楽器演奏とは無縁となり、専らモーツァルトを中心としたクラシック音楽鑑賞一辺倒となった。数年前から無性に「もう一度楽器演奏を・・・」との思いに駆られて、駅前の「○○○音楽教室」で日曜午後フルートの個人レッスンを受け始めて丸2年。

観ると演るとは大違い!!指使いのややこしさ、安定しない楽器でミリ単位に息の当たる最適場所を探る作業、結構必要な腹筋力等々、「少なくとも認知症防止と肥満防止には有効であろう・・・」と通勤車内では転倒防止用の握り棒をフルート代わりに指使いの練

習、歩行中は腹式呼吸でリズムカルに葡萄の種を飛ばす仕草をしながら歩く等「いつかは名人中の名人<ジャン・ピエール・ランパル>の域に・・・」と努力の日々である。



Monthly Production Report

2005年10月度レコード生産実績

10月度の音楽ソフト(オーディオレコード・音楽ビデオの合計)生産実績は、2カ月連続で前年同期を上回り、数量で前年同月比104%の2,727万枚・巻、金額で前年同月比105%の330億円となりました。このうち、オーディオレコードは、邦盤CDアルバムが好調で、数量で前年同月比123%の1,203万枚・巻、金額では前年同月比115%の163億円となりました。また、音楽ビデオは、数量で前年同月比138%の349万枚・巻、金額で前年同月比138%の47億円と大幅に伸長しました。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

			10月実績						2005年(1月~10月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
シ	8cmCD	邦	29	0	5%	16	0	27%	1,543	1	12%	237	0	21%
		洋	2	0	46%	1	0	187%	176	0	12%	18	0	13%
		計	31	0	5%	16	0	28%	1,719	1	12%	255	0	20%
ン	12cmCD	邦	3,454	15	63%	2,647	9	63%	51,156	21	96%	39,775	14	97%
		洋	31	0	21%	26	0	21%	548	0	81%	401	0	72%
		計	3,486	15	62%	2,672	9	62%	51,704	21	95%	40,176	14	97%
ル	小計	邦	3,483	15	57%	2,662	9	63%	52,699	21	80%	40,012	14	95%
		洋	34	0	22%	26	0	21%	724	0	33%	419	0	61%
		計	3,517	15	56%	2,689	9	62%	53,423	22	78%	40,431	14	94%
12cmCD アルバム	邦	12,025	51	123%	16,281	57	115%	119,970	49	107%	166,110	57	102%	
	洋	7,488	31	109%	8,670	31	98%	65,902	27	107%	77,836	27	92%	
	計	19,513	82	117%	24,951	88	108%	185,871	76	107%	243,946	84	99%	
CD 合計	邦	15,508	65	98%	18,944	67	103%	172,668	70	97%	206,122	71	101%	
	洋	7,522	32	108%	8,696	31	97%	66,626	27	105%	78,255	27	91%	
	計	23,030	97	101%	27,640	98	101%	239,294	97	99%	284,377	98	98%	
アナログ ディスク	邦	52	0	412%	69	0	429%	203	0	34%	250	0	99%	
	洋	2	0	26%	3	0	32%	50	0	22%	82	0	46%	
	計	54	0	263%	71	0	286%	253	0	30%	332	0	77%	
カセット テープ	邦	676	3	102%	578	2	95%	6,207	3	81%	5,252	2	84%	
	洋	0	0	13%	0	0	31%	19	0	143%	17	0	153%	
	計	676	3	102%	578	2	95%	6,226	3	81%	5,269	2	84%	
その他	邦	16	0	66%	30	0	77%	204	0	100%	297	0	122%	
	洋	11	0	73%	21	0	69%	172	0	79%	339	0	80%	
	計	27	0	69%	52	0	73%	377	0	89%	636	0	95%	
合計	邦	16,251	68	98%	19,621	69	103%	179,283	73	96%	211,921	73	100%	
	洋	7,535	32	107%	8,721	31	97%	66,867	27	104%	78,692	27	91%	
	計	23,786	100	101%	28,341	100	101%	246,149	100	98%	290,613	100	98%	

● 音楽ビデオ

			10月実績						2005年(1月~10月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	邦	2,276	65	122%	2,782	59	122%	25,289	82	130%	30,878	77	103%	
	洋	1,127	32	196%	1,655	35	166%	4,894	16	120%	7,729	19	102%	
	計	3,403	98	139%	4,437	95	135%	30,183	98	128%	38,607	97	103%	
テープ・LDその他		82	2	108%	247	5	232%	726	2	74%	1,263	3	72%	
合計	邦	2,344	67	121%	2,939	63	123%	25,997	84	127%	32,039	80	101%	
	洋	1,141	33	198%	1,746	37	175%	4,912	16	119%	7,831	20	103%	
	計	3,485	100	138%	4,684	100	138%	30,909	100	126%	39,870	100	101%	

● 音楽ソフト(オーディオ/音楽ビデオ合計)

			10月実績						2005年(1月~10月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ		23,786	87	101%	28,341	86	101%	246,149	89	98%	290,613	88	98%	
音楽ビデオ		3,485	13	138%	4,684	14	138%	30,909	11	126%	39,870	12	101%	
合計		27,271	100	104%	33,025	100	105%	277,059	100	101%	330,483	100	98%	

● ビデオ(含音楽ビデオ)

			10月実績						2005年(1月~10月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD		12,650	98	114%	15,442	97	109%	103,413	97	97%	136,604	95	99%	
テープ・LDその他		199	2	51%	529	3	35%	2,663	3	45%	7,727	5	36%	
合計		12,850	100	112%	15,972	100	102%	106,075	100	94%	144,331	100	91%	

● オーディオ/ビデオ合計

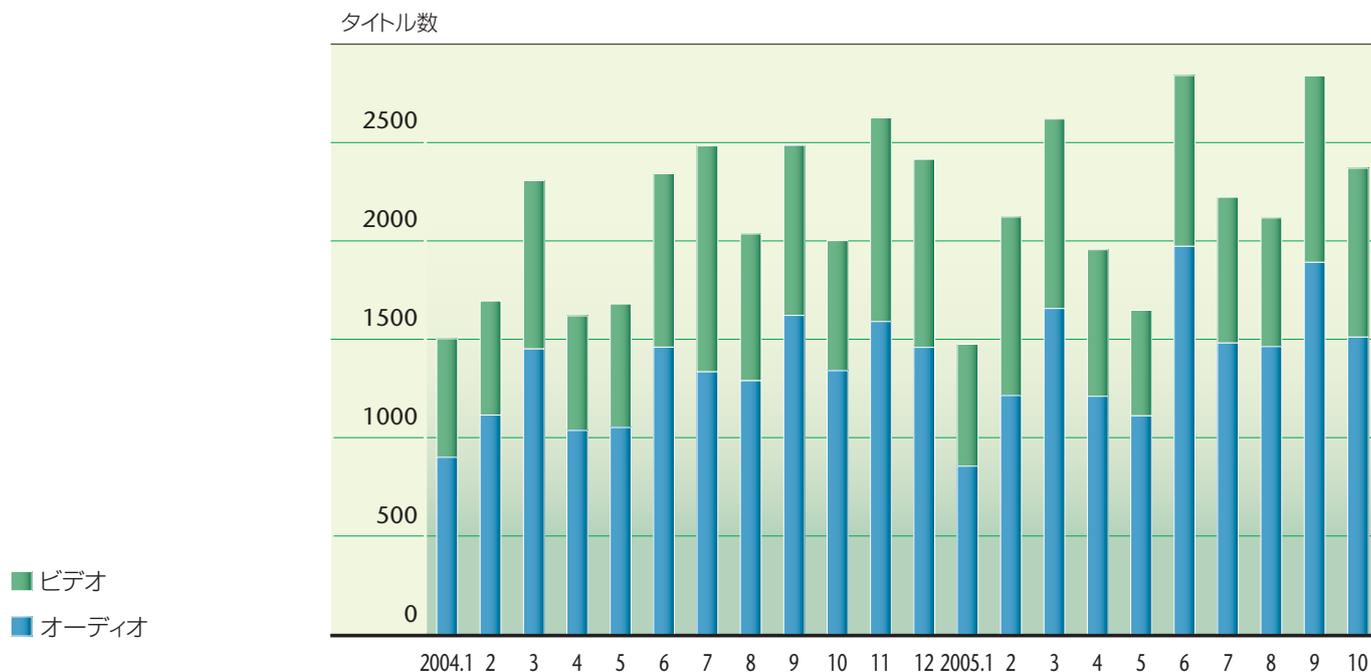
			10月実績						2005年(1月~10月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ		23,786	65	101%	28,341	64	101%	246,149	70	98%	290,613	67	98%	
ビデオ		12,850	35	112%	15,972	36	102%	106,075	30	94%	144,331	33	91%	
合計		36,636	100	104%	44,313	100	101%	352,225	100	97%	434,944	100	95%	

備考 1. 上記実績は、会員会社「41社」の集計である。当会員会社が受託した非会員会社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

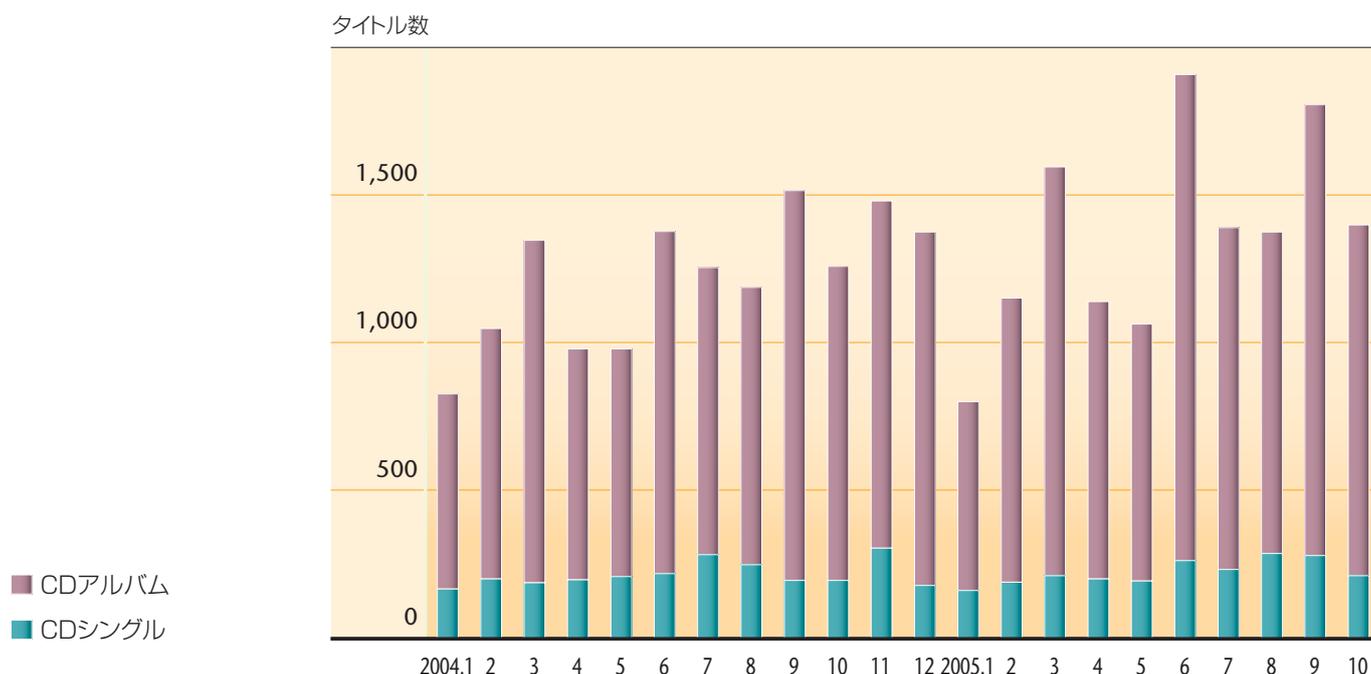
月別オーディオ・ビデオ新譜タイトル数の推移

今月は2004年1月から直近までの月別の新譜リリースをグラフでご紹介します。新譜は毎年3月、9月、11月に多く発売されています。全体的な流れとしては、順調に新譜タイトル数が増加しています。また、毎年春に発行される「日本のレコード産業」では、オーディオレコードの暦年種別別推移をご紹介しますので併せてご覧ください。

● 月別新譜タイトル数の推移



● CDの月別新譜タイトル数の推移



Gold Album +... 認定

2005年10月度

2005年発売の新譜では、ミリオン3作品、ダブル・プラチナ1作品が認定されました。

■ 邦楽

アルバム

● ミリオン

NATURAL	ORANGE RANGE	2005.10.12	SR
BEST~first things~	倅田来未	2005.09.21	AVT
キラーストリート	サザンオールスターズ	2005.10.05	V

● ダブル・プラチナ

夢の中のまっすぐな道	aiko	2005.03.02	PC
------------	------	------------	----

● プラチナ

Do The A-side	Do As Infinity	2005.09.28	AVT
---------------	----------------	------------	-----

● ゴールド

Best	GARNET CROW	2005.10.26	GZ
Rose	加藤ミリヤ	2005.10.26	SR
清木場俊介	清木場俊介	2005.10.19	AVT
VOCALIST	徳永英明	2005.09.14	UM
YAMATO	長渕 剛	2005.10.19	FL
5MC & 1DJ	nobodyknows+	2005.11.02	AI
From To	平原綾香	2005.11.02	DRM
Orange	V6	2005.10.12	AVT
秋桜	リュ・シウォン	2005.10.05	TJC
「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」COMPLETE BEST	VARIOUS	2005.11.02	SM

シングル

● プラチナ

プラネタリウム	大塚 愛	2005.09.21	AVT
---------	------	------------	-----

● ゴールド

きみの て	Every Little Thing	2005.10.26	AVT
男の出船	北山たけし	2005.02.25	TE
BEAT	木村カエラ	2005.10.05	C
Sweet Mom	柴咲 コウ	2005.10.05	UM
COUNTDOWN	HYDE	2005.10.05	KS
かざぐるま	一青 窈	2005.09.21	C
POP STAR	平井 堅	2005.10.26	DF

■ 洋楽

アルバム

● ダブル・プラチナ

アメリカン・イディオット	グリーン・デイ	2004.09.23	WJ
--------------	---------	------------	----

● プラチナ

#1's	DESTINY'S CHILD	2005.10.26	SI
------	-----------------	------------	----

● ゴールド

ミュージック・オブ・ザ・サン	リアーナ	2005.08.27	UM
----------------	------	------------	----

ゴールド・アルバム他認定基準枚数一覧

洋楽・邦楽	略号	最低正味出荷枚数 アルバム/シングル
ゴールド	G	累計100,000以上
プラチナ	P	250,000
ダブル・プラチナ	PP	500,000
トリプル・プラチナ	PPP	750,000
ミリオン	M	1,000,000
2ミリオン	2M	2,000,000
3ミリオン	3M	3,000,000

※AI:ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ/AVT:エイベックス・エンタテインメント/BG:ビーグラムレコーズ/BM:バーミリオンレコード/BMG:BMGファンハウス/C:コロムビアミュージックエンタテインメント/CR:日本クラウン/DF:デフスターレコーズ/DRM:ドリーミュージック/EP:アップフロントワークス(ゼティマレーベル)/ES:EPICレコードジャパン/FL:フォーライフミュージックエンタテイメント/GN:ジェネオン エンタテインメント/GZ:ギザ/JA:ジェイ・ストーム/JE:ジャニーズ・エンタテイメント/JK:ユナイテッド・アジアエンターテイメント/K:キングレコード/KS:キューンレコード/MC:ミュージチャー・コミュニケーションズ/MH:ソニー・ミュージックダイレクト/ON:ビー・ヴィジョン/PAR:プライエイド・レコーズ/PC:ポニーキャニオン/PK:ピッコロタウン/PZ:ピザ・オブ・デス・レコーズ/QQ:バームビーツ/RR:ロードランナー・ジャパン/SE:エスエムイーレコーズ/SI:ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル/SM:ミュージックレイン/SN:SENHA & CO./SR:ソニー・ミュージックレコーズ/SV:アニプレックス/TE:テイチクエンタテインメント/TF:トイズファクトリー/TJC:徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO:東芝EMI/UM:ユニバーサルミュージック/V:ビクターエンタテインメント/WJ:ワーナーミュージック・ジャパン/XL:アンリミテッドグループ/YR:アール・アンド・シー



NATURAL/ORANGE RANGE



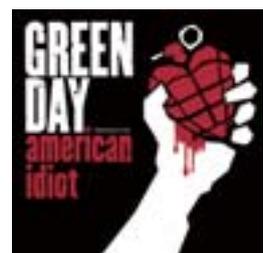
BEST~first things~/倅田来未



キラーストリート/
サザンオールスターズ



夢の中のまっすぐな道/aiko



アメリカン・イディオット/
グリーン・デイ

※ダブル・プラチナ(50万枚)以上の認定を受けた作品のジャケット写真を紹介します。

協会からのお知らせ

特集でご紹介しましたが、今年度の「Respect Our Music」キャンペーンがスタートしました。今年度は、夏川りみさん、一青窈さん、大黒摩季さんのご協力を得て、音楽ファンに各氏の音楽を愛するメッセージを伝えることで、音楽の大切さを訴えていきます。



Respect our MUSIC

THE RECORD No.553 2005年12月号
社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 佐藤 修
編集人 田辺 攻
発行日 2005年12月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16 北青山吉川ビル11F
TEL: 03-6406-0510(代) FAX: 03-6406-0520(代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

あっという間に師走となりました。今年はPC・モバイルの音楽配信の大幅な伸長と共にパッケージ市場も現状回復基調にあります。今、レコード産業は急激な変革期の真っ只中にありますが、今年はその枠組みを担う"登場人物"がほぼ出揃った1年でもありました。来年はいよいよ反転に向けた第一歩となります。来年もよろしくお祈りします。

(S)

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています